

1 基本情報					
施設名又はグループ名		指定管理者名及び団体概要			
多摩丘陵グループ		(指定管理者名)公益財団法人 東京都公園協会 (団体の概要)都市緑化の推進、公園や水辺を通じた安らぎとゆとりの提供を目的として設立され、公益目的事業(指定管理者事業を含む)及び収益事業を行う。			
指定期間					
H28.4.1 ~ R5.3.31(7年間)					
2 施設名		3 収支（単位：千円）			
		項目	金額	公園別支出額	
長沼公園、平山城址公園、小山田緑地、小山内裏公園、桜ヶ丘公園		収入計	324,737	長沼公園:15,918、平山城址公園:11,527、小山田緑地:101,283 小山内裏公園:97,030、桜ヶ丘公園:96,488	
		内 指定管理料	324,737		
		内 利用料金	0		
		支出計	322,246		
		収支差	2,491		
4 管理運営の概要					
<p>○新型コロナウイルス感染症拡大予防措置に係る取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手指消毒液等の設置や「新しい日常」を踏まえた園内掲示、イベント時の検温、ソーシャルディスタンスの確保のほか、職員のマスク着用、うがい手洗い等の徹底、サービスセンター内の換気やバーテーションの設置等により、感染症拡大予防措置に取組みました。 <p>○豊かな里山環境を保全・創出し、次世代に継承する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丘陵地レンジャーとボランティアとの協働により、里山環境と希少種等の生物多様性の保全に取組みました。 ・セルフガイドやニュースレターを作成し、ホームページからのダウンロード、Twitterでの発信、自然観察会等の中止に伴う動画配信等、コロナ禍の中でも積極的に里山の自然・文化の魅力を広く発信し、生物多様性保全活動の普及啓発を行いました。 <p>○里山の利活用を通じ、健康・生きがい・愛着を育む取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中で丘陵地公園の自然や広々とした空間という特性を活かし、公園利用者がいつでも、ひとりでも参加できるセルフウォーキングコースの設置や、ソーシャルディスタンスを保って開催した里山ヨガなど、都民に健康づくりの場と機会を提供しました。 ・感染症対策を徹底した上でボランティア活動を継続し、公園を愛する都民と協力して魅力ある公園空間の創出に取り組みました。 <p>○活動の輪を拡げ、地域コミュニティを活性化する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防のため外出自粛を続中で、ボランティアとの協働によるサロン活動や里山移動図書館などの取組を継続し、地域の高齢者や子育て世代など孤立させず、自由に過ごす時間を過ごすことができるサードプレイスとしての新たな居場所づくりに取り組みました。 ・SDGsの推進やインクルーシブ社会の実現に向け、近隣の特別支援学校への環境教育アクティビティや就労体験の場の提供、地域の小学校と連携した田んぼ保全活動など、子ども達を通じて地域とのつながりを強め、地域コミュニティの活性化に寄与しました。 					
5 管理状況（維持管理）					
<p>◆緊急事態措置に伴う駐車場・遊具施設・スポーツ施設・バーベキュー広場・ドックラン等の施設閉鎖対応は、公園利用者への分かりやすい告知と速やかな閉鎖作業により、事故や大きな混乱等なく実施することができました。また、公園利用者からのご意見・要望等には、丁寧に正確な説明を行い、感染拡大防止の取組にご理解いただきました。</p> <p>◆舗装・木道・柵等の管理施設、野外卓・ベンチ等の休憩施設、給排水・浄化槽等の設備は、維持管理計画に基づき補修を進めました。安全・快適な公園環境の維持、美観・景観の向上を図るとともに、長寿命化、ライフサイクルコスト削減にもつなげました。小山田緑地のパイオトレでは、環境に配慮した構造を理解し、補修履歴を活かした日常・定期的点検と補修を実施することにより、コロナ禍の中で公園利用者が増加したなかでも、故障による利用休止期間を最小限とどめ、公園利用者の利便性を確保しました。</p> <p>◆カシノガキクイムシによるナラ枯れ被害が広がったことから、平成29年度に開催した「里山フォーラム」の参加者を中心とした多摩丘陵の緑地管理に携わる関係自治体、近隣指定管理者、学術機関研究者等にお声がけし、「里山情報連絡会」を2回開催しました。コロナ禍の中で小山内裏公園を親会議室とするオンライン会議として開催し、広域的な被害状況の把握と対策状況、調査や対処計画策定手法などの情報共有を図るとともに、令和3年度以降、生物多様性保全等他のテーマについても情報共有が期待できる連携体制を強化することができました。また、長沼公園では、周辺樹林や隣接地との境界に点在する竹林の無秩序な拡大を防ぐため、生物多様性に配慮した計画的な伐採を実施し、林内の希少植物保護、隣地の日照障害防止、竹林の健全育成を図ることで、里山の美しい竹林を維持することができました。</p> <p>◆事件・事故・要望・苦情に対し、速やかに対応し早期解決・復旧に努め、安全・安心で快適に利用できる公園の提供につなげました。夜間、小山田緑地園内に車両が進入した事案では、警察に巡回強化を依頼するとともに、擬石ブランターによる通行止めを行うことにより、里山景観に配慮しながら有効な防犯対策を行うことができました。</p> <p>◆気象災害対策として豪雨・雪害等に備えハザードマップを更新し、適切な緊急配備体制の確保をするなど、きめ細かな気象災害防止に努めました。前年度末の降雪により園路路肩崩落が発生した長沼公園では、これまでの補修経験を活かし、特約店への迅速な発注により復旧工事を行い、1箇月以内に園路を開放することができ、公園利用者の利便性と安心安全な環境を回復することができました。</p> <p>◆生物多様性保全活動とモニタリング調査をボランティアや関係機関と連携して進め、保管理や個体数の回復につなげました。小山内裏公園では、ピオトプ池のヨシの輪伐と浸透により、水道水の補充を要しない自然環境下での池の存続が可能となり、水深の改善とアイコイトモの繁茂により、希少種キイトンボ等トンボ類の生育環境を向上させることができました。</p>					
6 利用者アンケート結果					
実施方法：対面聞取					
施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員への対応
長沼公園	4.7	4.5	4.7	4.7	4.7
平山城址公園	4.6	4.6	4.7	4.8	4.8
小山田緑地	4.8	4.7	4.6	4.6	4.8
小山内裏公園	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8
桜ヶ丘公園	4.7	4.7	4.7	4.8	4.7
7 入園者数の状況（単位：人）					
施設名	当該年度	分析			
長沼公園	62,477	遠方への外出自粛の影響で、前年度比148%増加した。			
平山城址公園	71,975	遠方への外出自粛の影響で、前年度比223%増加した。			
小山田緑地	730,942	雑木林セルフウォーキングコースを設定し、コロナ禍の中での健康志向ニーズに応えた。			
小山内裏公園	1,040,222	サードプレイス事業「いきいき交流の集い」等により近隣住民の居場所づくりに寄与した。			
桜ヶ丘公園	393,896	ボランティアや近隣教育施設との連携を通じて、地域にインクルーシブな環境を提供できた。			
合計	2,299,512				



指定管理者：公益財団法人東京都公園協会 多摩丘陵グループ

公園の「表玄関」を新たなビュースポットとして整備し、木漏れ日が射す生物多様性環境の創出

事業計画 No3-③-7 評価区分 5

平山城址公園では、北中央口を「表玄関」と捉え、案内板やパンフレットスタンドなどを設置して、公園利用者をお迎えしてきました。今年度、開園40周年を迎えるにあたり、この「表玄関」を新たなビュースポットとして整備する取組を行いました。

周辺の雑木林の中に生い茂ったササを刈り、常緑樹の枝打ちや伐採を行ったところ、「表玄関」としてふさわしい、見通しのよい空間を作り出すことができ、公園利用者からも「死角が無くなって、安心して公園に入ることができる。」と喜んでいただきました。また、雑木林の中に、木漏れ日が林床まで差し込む明るい環境を作り出すことができ、キンランやキクムグラなどの希少種の生育が期待できるようになりました。

景観向上だけでなく、平山城址公園の生物多様性環境を向上し、保全活動の成果を間近に観察していただけるスポットとして、公園の新たな魅力を引き出すことができました。



林床手入れの様子

丘陵地ボランティアと取り組む計画的な雑木林管理の実施で、ナラ枯れ被害ゼロを達成！

事業計画 No3-③-75 評価区分 2 2

丘陵地ボランティアが萌芽更新した雑木林再生地区では、10年にわたり、ドングリから育てた苗を植え、下草刈り、実生木を撤去するなど、胸高幹周60cm前後のコナラによる明るい雑木林の景観の維持、キンラン、タマノカンアオイ等の希少植物の生育環境の保全に取り組んでいます。今年度は計画に基づいて作業を実施するため、マスク着用、ソーシャルディスタンスの確保等、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底しながら、活動を継続しました。

8月にカシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害調査を行ったところ、平山城址公園では158本のコナラに被害が発生していましたが、雑木林再生地区の幹周60cm前後のコナラには被害木はありませんでした。多摩地区の公園緑地関係者を集めて開催した「里山情報連絡会」で好事例として紹介し、平山城址公園における健全な雑木林の保全、育成をアピールすることができました。



雑木林再生地区の状況（1月）



指定管理者：公益財団法人東京都公園協会 多摩丘陵グループ

近隣住民にも快適な公園空間を提供するため、無秩序な拡大を防ぐ計画的な竹林管理の実施

事業計画 No3-③-77 評価区分 5

長沼公園の北側の住宅地との境界には竹林が点在しています。竹林の無秩序な拡大により、近隣住民から日照へ影響を心配する声がありました。そこで、**林床のカタクリ等の希少種保護のため、急激に環境が変化しないように配慮した段階的な伐採計画を策定し、計画的な竹林の伐採を行いました。**伐採にあたっては、約1mの高さで切ることにより、翌春水を吸い上げた竹が根まで枯れる「タケの1m切り」と呼ばれる最新の手法を取り入れる工夫を行いました。

伐採作業後、**近隣住民から「日照不足の心配がなくなった。」との感謝の言葉をいただき、隣接地にも安心して快適な公園環境を提供することができました。**



伐採後の竹林の状況

35,000株のカタクリが咲き誇る景観を守るため、丘陵地レンジャーと丘陵地ボランティアが共に取り組んだ保全活動

事業計画 No3-③-81・83 評価区分 6

長沼公園の北斜面には、**6箇所のカタクリ群生地があり、開花の時期には例年35,000株が開花**します。この素晴らしい生育環境を保全するため、早春、**丘陵地レンジャーが丘陵地ボランティアと協働で、ササ刈り、落ち葉掻き等の維持管理作業を行いました。**

今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、活動日前1~2週間の行動や健康状態のチェックを行い、活動当日は検温、マスク着用、ソーシャルディスタンスの確保、作業に使用する鎌、剪定ばさみ等のアルコール消毒等の徹底により、ボランティアの健康に留意しながら安全に実施しました。

踏圧でカタクリを傷めてしまうことがないように、種子や鱗茎が発芽に向けて動き出す前に完了できるように**計画的に作業を行い、貴重なカタクリ群生地の環境を保全することができました。**ふだん群生地は閉鎖管理していますが、3月23日からA地区を開放し、**公園利用者に希少なカタクリが咲き誇る春の長沼公園の景観を楽しんでいただくことができました。**



三密を避けて作業実施



林床一面に咲誇るカタクリ

迅速な災害復旧と施設の長寿命化を意識した補修により、安心・安全に公園散策を楽しんでいただける環境を保持

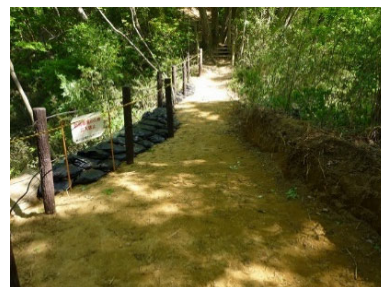
事業計画 No3-③-1・2・20・46 評価区分 15

西尾根北側園路は起伏に富み、低山ハイクを楽しむ公園利用者に人気の散策コースですが、一部園路幅が狭く、路肩の崩落の危険があるなど、園内で最も安全管理に注意が必要な箇所でもあります。

昨年度3月には降雪による倒木で路肩が崩落したため、公園協会内の土砂災害専門スタッフと連携し、特約店制度を活用した**迅速な復旧作業**を行い、**1箇月程度で通行止めを解除**することができました。施工にあたっては、耐久性の高い対候性の土嚢やシートを使用し、**長期にわたって安心・安全な園内環境を提供**できるようになったことにより、**緊急事態宣言解除後に初夏の公園散策を楽しみたい公園利用者のニーズに応え、感謝の声をいただく**ことができました。

また、過去の補修履歴を踏まえた点検や巡回中の公園利用者からのお声かけにより、中腹に設置された**階段の木部が老朽化し、腐食している箇所**を発見したため、踏み板の張替え、固定用ビスの交換、増し締め等を実施しました。なお、補修にあたっては、**施設の長寿命化を意識し、踏み板には腐食防止の塗装をし、ライフサイクルコストの低減**に努めました。

11 住み続けられるまちづくりを



復旧後の崩落現場



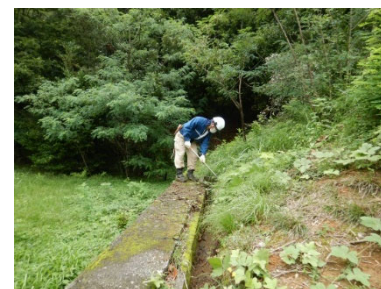
腐食防止塗装済の踏み板に交換

ハザードマップに基づく点検による気象災害に対する事前準備の徹底

事業計画 No3-③-21・22 評価区分 14

急峻な地形を持つ長沼公園では、台風やゲリラ豪雨等まとまった降雨があると、園内の斜面地から隣接する平坦な住宅地の境界へ雨水が流出する危険があります。そのため、毎日の巡回や梅雨、台風シーズン前などには**ハザードマップに基づき点検**を行い、**側溝付近の実生木や雑草の繁茂や土砂の堆積を発見した際には、その都度速やかに除去作業**を実施しました。また、**園外に雨水が流出する危険がある箇所には土嚢を設置**し、平時から気象災害に対する備えを万全に行い、公園利用者はもちろん、**近隣住民にも安全・安心な公園環境を提供**することができました。

11 住み続けられるまちづくりを



側溝周辺の除草作業



小山田緑地

指定管理者：公益財団法人東京都公園協会 多摩丘陵グループ

コロナ禍の中でだれもが楽しめる健康づくりの場として、森林浴を兼ねた「雑木林セルフウォーキング」コースや気軽に体を動かせるコンテンツを提供

事業計画 No3-②-70・86 評価区分 23

少子高齢化により健康志向が高まる中、コロナ禍による外出自粛の影響で、身近な行楽地として公園利用者が増えました。この新しいニーズに応えるため、森林浴を兼ねた新たな「雑木林セルフウォーキング」コースを設定し、QRコードを活用した抗菌素材のサインによる消費カロリー表示や簡単な体験コンテンツを提供し、だれもが楽しみながら健康づくりができる環境を創出しました（3月開始・参加者3人）。

また、緊急事態宣言の再発出で中止とした「キッズイベントデイズ」に代わり、消毒やソーシャルディスタンスの確保等感染症予防対策を徹底した上で、展示室内で地元プロサッカーチームが作成した体操動画の放映、昔遊びに係るパンフレットの展示等を行いました。子どもから高齢者まで幅広い年齢層が、気軽に体を動かすことのできるコンテンツの提供により、「新しい日常」の中で公園が新たな役割を果たすことができました。



QRコードを読み込むセルフウォーキング参加者

多摩の原風景である里山環境を守り、子ども達に残すために、都民協働で継続した田んぼ活動を通じた稲作文化の普及啓発

事業計画 No3-②-18・81・119・③-7・13・58 評価区分 2・22・24

梅木窪分園では、多摩丘陵の原風景である里山環境を守り、伝えるため、地域や小学校と協働で田んぼ活動を行っています。今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、子ども達の参加を見合わせ、ボランティアと協働で作業を完遂しました。また、発生材を活用した水車及び稲作文化を紹介する木製の案内板を作成し、田んぼ脇の水路に設置して、里山環境の歴史・文化を伝える新たなビュースポットを創出しました。

田んぼ活動で発生した稲わらは自然に還る循環的な素材として、伝統的なあんぎん織りの手法でむしろに編み、ぬかるみや滑りを解消するために園路5箇所を設置しました。また、検温や消毒等の感染症予防対策を徹底した上で開催した「収穫を感謝する日」では、田んぼ活動を紹介するパネル展示や稲わらを活用した縄ない等の体験、唐箕や千歯こき等の展示・実演等により、子どもも大人も楽しみながら稲作に関する伝統技能や文化に理解を深めていただき、里山環境保全に係る田んぼ活動の重要性をPRしました。



水車のある田んぼの風景



稲わらを活用したむしろ

公園の生物多様性と魅力を高める 丘陵地レンジャーによる生育環境向上と「見える化」の取組

事業計画 No3-②-42・③-81 評価区分 6

多摩丘陵グループの公園では、**丘陵地レンジャーが中心となって生物多様性保全活動**に取り組んでいます。

小山田緑地では、トンボ池を中心に、トンボの産卵習性を踏まえた水生植物の管理、発生材を活用したエコスタックの設置による外来生物からヤゴを守る取組、未成熟個体の捕食行動を考慮した水辺周辺の草地の刈り残し等、**成長段階に通じて様々な自然環境が必要となるトンボの生態に配慮した保全活動を実施**しました。

また、**国蝶オオムラサキをはじめとするチョウ類の保全活動**も行いました。成虫が吸蜜のために訪れる花や幼虫の食草となる植物の刈り残しなどを継続して実施するとともに、**解説サインで保全活動や取組内容を公園利用者に周知**しました。

さらに、コロナ禍により外出自粛が求められる中、自宅でも小山田緑地の豊かな自然を体感していただくため、**YouTube や Twitter 等の新しい広報ツールで積極的に発信**しました。YouTube では季節ごとの自然や生きものを紹介する動画5本を配信し、Twitter では記念日やSDGs等のハッシュタグの活用により、**前年度比150%のフォロワー数増加等、効果的に情報発信**することができました。



丘陵地レンジャーの活動の様子



チョウ類保全の解説サイン

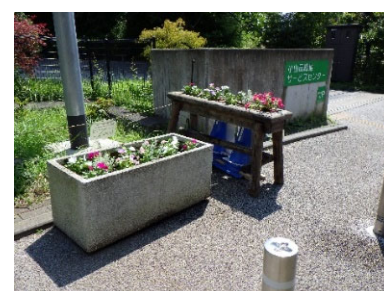
増加する公園利用者と地域に安全で快適な公園環境を提供するために、 里山環境に配慮した防犯対策と補修履歴に基づく適切なバイオトイレ管理

事業計画 No.3-②-75・3-③-2・51 評価区分 1・3

緊急事態宣言下で遠方への外出が制限された影響で、公園利用者が増加したことにより、新たに発生した課題に柔軟に対応しました。

夜間、園内に車両が進入した事案では、所管駐在所に巡回強化を依頼するとともに、**擬石プランターによる通行止め**を行うことにより、**里山景観に配慮しながら有効な防犯対策**を行いました。所管駐在所とは情報共有を密に行い、近隣の治安状況に合わせて園内巡回人数を2人から4人に増やす等の監視体制の強化により、**近隣住民にとっても安心・安全な公園環境を維持**することができました。

また、梅木窪分園と大久保分園の2箇所にある**バイオトイレ**では、公園利用者増加に伴い排水詰まりが発生していたので、**環境に配慮した構造を理解**するところから始めて、**補修履歴を活かした日常・定期の点検と補修を実施**することにより、5月以降故障による利用休止期間を最小限にとどめ、公園利用者に**利便性の高い衛生環境を提供**することができました。



擬石プランターによる車止め



バイオトイレの点検の様子



指定管理者：公益財団法人東京都公園協会 多摩丘陵グループ

「里山フォーラム」の連携を活かした広域的なナラ枯れ対策に向け、「新しい日常」を踏まえたオンライン会議「里山情報連絡会」の開催

事業計画 No3-②-74・3-③-28・80 評価区分 30

多摩地区で深刻化しているナラ枯れをテーマに、小山内裏公園が事務局となり、多摩地区の公園緑地管理に携わる社内外の関係者を集め、「里山情報連絡会」を2回開催しました。感染症対策のため、小山内裏公園を親会議室としたオンライン開催とし、「新しい日常」の中で公園協会がコーディネーターとしての役割を發揮し、組織や立場を越えた広域的な連携体制を推進・拡大しました。

第1回は公園協会23名、東京都・自治体・近隣指定管理者・学術機関等外部12団体16名、第2回は公園協会19名、外部10団体13名に参加していただきました。ナラ枯れに関して、各所の被害状況が明らかになったほか、第2回では国土地理院の地理情報システムで作成した被害状況位置図を資料として提示することで、専門家からも今後に向けた有益な助言を多数いただくことができ、令和3年度以降の計画的な対応方針を策定することができました。



オンライン会議の様子

コロナ禍の中で、地域の高齢者や子育て世代を孤立させないために、サードプレイス事業「いきいき交流の集い」による居場所づくり

事業計画 No3-②-59・60・61・No4-都-1・2・自-6・8 評価区分 22

外出自粛が続く中、地域の高齢者や子育て世代が孤立しないよう、ボランティアグループ「どんぐり分校」と協働で、公園の中に居場所を提供するサードプレイス事業として10月から「いきいき交流の集い」を開始しました（毎月第1・3水曜日に全10回開催・参加者合計346人）。従来から実施していた育児サロン「ゆうゆうクラブ」に加え、「だれでも自由に弾けるピアノ」や八王子市南大沢図書館の蔵書提供による「里山移動図書館」を同時開催しました。「だれでも弾けるピアノ」に参加した近隣の音楽活動家からの申し出を受け、ピアノとフルーツによるミニリサイタルやクリスマスに因んだ楽曲の演奏会も開催できました。

実施に当たっては、国、東京都、八王子市の感染症予防方針や対策マニュアルに則り、チェックシート等を活用した感染症防止対策を徹底しました。

地元のタウン誌やテレビ局に取材を受ける等、近隣住民を中心とした多種多様な公園利用者に、自由に心地よい時間を過ごしていただける安全・安心な居場所として、定着させることができました。



だれでも自由に弾けるピアノ



公園がサードプレイスに

「新しい日常」の中で公園の魅力や取組を効果的に伝えるため、QRコード等新しいツールを活用した普及啓発の推進

事業計画 No3-②-41・42・47・55 評価区分 20

コロナ禍による外出自粛の影響で、身近な行楽地として公園利用者が増えました。この新しいニーズに応えるため、セルフガイドシートを38種発行(改訂2種・増刷1種含む)しました。感染症拡大防止に向けた「新しい日常」の中で、ガイドツアーに代わる植物解説ツールとして、新たにQRコードを追加したところ、昨年度比146%の5,310枚を配布することができました。また、ホームページへの掲載により、自宅に居ながらにしてダウンロードを可能とし、より広範囲に季節のトピックスや楽しみ方など公園の魅力を伝えることができました。近隣の小学校に提供し、公園内での環境学習の資料として活用してもらい、大変好評をいただきました。

また、丘陵地レンジャーを中心とした生物多様性保全活動や職員の直営作業、各ボランティアグループの取組を紹介する「小山内裏公園かわら版」を毎月1回作成・配布し、公園への理解を深め、信頼感を高めることができました。



QRコードを追加したセルフガイドシート

ビオトープ池の計画的な管理の継続や希少種の保全方法の工夫による生物多様性環境の向上と普及啓発、新たな人材育成の取組

事業計画 No.3-②-3・③-9・74 評価区分 6・22

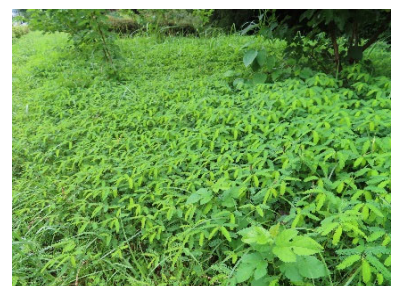
多摩丘陵グループの公園では、丘陵地レンジャーを中心として生物多様性保全活動に取り組んでいます。

小山内裏公園では、ビオトープ池の輪伐や浚渫等、計画的な植生管理を継続し、キイトンボの生育環境を向上させました。その結果、キイトンボの増殖、マルタンヤンマの初確認を含む15種(前年度は9種類)のトンボ類を確認できました。12月には外部専門家による第三者評価を行い、当該環境と管理手法について高く評価いただくことができました。また、絶滅危惧種であるカワラケツメイについては、選択的除草時期・範囲の見直し、採取播種等により、1昨年度比50倍の2,510株という大きな成果につながりました。その他、希少種の生息域外保全にも取り組み、鮎道での自生を初めて確認したシャクジョウソウについては、一部を自生地での自然増殖、一部を神代植物公園植物多様性センターでの培養、という新たな試みも開始しました。これらの取組は、「公園かわら版」への掲載やサンクチュアリツアー等での普及啓発に活用しました。

さらに、植物管理だけでなく公園の管理運営に携わりたいという近隣住民をボランティアとして、丘陵地レンジャーが年間を通じて計画的に指導し、レンジャー業務やガイドツアー等補助を行いながら知識習得に努め、次年度の「里山学芸員」認定候補として着実に育成することができました。



ビオトープ池を専門家が高評価



カワラケツメイが群落に!



指定管理者：公益財団法人東京都公園協会 多摩丘陵グループ

**公園から始めるインクルーシブ社会の実現！
特別支援学校と共に創意工夫をしながら拡充した
環境教育アクティビティの提供**

事業計画 No3-②-56・71・86 評価区分 20・23

前年度、隣接する都立特別支援学校多摩桜の丘学園に働きかけ知的障害部門3年生31名に環境教育アクティビティを提供し、大変好評でした。今年度はさらに拡大をとの要望を受け、同部門の全学年総計127名が参加、丘陵地レンジャーをはじめ全職員が講師となり、9月から3月まで全11回開催しました。

1、2年生は自然素材のおもちゃ遊び、3、4年生は落葉掻きやリースの輪投げ、5、6年生は様々な樹木やドングリ拾いをチェックポイントにしたオリエンテーリングと、各学年の成長度合いに応じたアクティビティを提供し、公園の豊かな自然への理解と愛着を深めました。後日、お礼の手紙を沢山いただき、ご家族と来園する姿も多く見受けられました。教職員からは「いつもより積極性を示す児童が多く見られた。」と喜びの声が上がり、来年度は肢体不自由教育部門にも提供してほしいとお声がけいただいています。

さらに、今年度初めて、幅広い年齢層を対象としたセルフウォーキングプログラムを作成しました。その中で誰もが無理なく楽しめる二つのコースを設定し、学園の児童・生徒の絵を活用した距離表示を44基設置しました。多様な感性で描かれた絵がコースに彩りを添え、子ども達が地域の中で健やかに成長できる環境を創出し、インクルーシブ社会の実現に寄与することができました。



落葉掻きエリア



児童からのお礼の手紙

**ミズオオバコのライフサイクルに合わせた自生地管理による
開花数増加と周辺水辺生態系の多様性向上への貢献**

事業計画 No3-③-81 評価区分 6

桜ヶ丘公園の谷戸田では、東京都レッドリストで南多摩 VU（絶滅危惧Ⅱ類）に指定されているミズオオバコが自生しています。昨年度に引き続き、水田の水路の流路の見直し、休耕していた4区画での稲作再開など、ミズオオバコのライフサイクルに合わせた自生環境の保全に取り組みました。水路整備による湛水の安定化、田の草取り、稲作作業の踏圧による適度な攪乱による埋土種子の休眠解除により、稲作を再開したうちの1区画で埋土種子の発芽、開花を促すことに成功し、例年を大幅に上回る1日600株を超える開花数を記録しました。谷戸田の自生地だけでなく、多摩地区の水辺生態系の種の多様性の向上にも大きく貢献することができました。



群生するミズオオバコ

雑木林ボランティアによる里山保全活動の恵みを活かした コロナ禍におけるフードロスの推進

事業計画 No3-②-81 評価区分 22

雑木林ボランティアが里山保全活動として育てたサツマイモや米は、毎年「どんぐり祭り」で提供しています。今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため「どんぐり祭り」を中止としたため、これらの**里山の恵みを無駄にせず、有効活用する方法についてボランティアと検討**と重ねました。その結果、サツマイモは多摩市社会福祉協議会の紹介により NPO 法人フードバンク TAMA を通じて**児童福祉施設などに提供**しました。また、米は、アカハライモリの調査等で連携している公益財団法人東京動物園協会が運営する**井の頭自然文化園に提供し、動物たちの餌として有効活用**していただきました。



子ども達にサツマイモを提供

ボランティアや近隣住民とともに防火・防犯に取り組み、 地域コミュニティの中での安心・安全な環境の提供

事業計画 No3-③-39・53 評価区分 1・13

新型コロナウイルス感染症予防のため、「地域連携防災訓練」が中止となったことから、防災力向上のため、**近隣住民が主体となって活動している雑木林ボランティアに、今年度初めて防災トイレ用のテントの出し入れや設置等を体験**してもらい、万が一への備えとしての協働体制を強化することができました。

また記念館口駐車場周辺では、長年夜間の迷惑駐車が地域の課題でした。緊急事態宣言下の駐車場閉鎖で、近隣住民の不安感が増したことから、**夜間に発光する蓄光素材の案内板設置や地元駐在所と連携した夜間巡回強化等に取り組み、迷惑駐車が解消され、地域コミュニティの中で安心・安全な環境を提供**することができました。



協働で防災トイレを設置

桜ヶ丘公園の里山景観・環境を作るサクラやコナラを守り育てるため、 様々な手法や専門家との連携による育成・保全の取組

事業計画 No3-③-17・63 評価区分 5

桜ヶ丘公園の景観を特徴づけているソメイヨシノやヤマザクラなどの中には樹勢が衰えてきたものがあります。そこで、ソメイヨシノは堆肥充填と割竹挿入により土壌を改良、ヤマザクラは園内各所で拾い集めた約 600 個の種子を冷蔵保存したのち播種する取組を行い、**後継樹育成のための第一歩を踏み出しました。**

また、小山内裏公園を親会議室として、ナラ枯れをテーマにオンラインで開催した「里山情報連絡会」では、雑木林ボランティアの萌芽更新の取組を紹介し、**専門家に「こならの丘」を視察してもらった上でアドバイスをいただくなど、関係機関との広域的な連携により里山環境の保全を進める**ことができました。



苗圃へのヤマザクラの播種